

<低い土地のくらし>

— 日本の約80%は海拔100m以下の低い土地
 そのような土地ではどのように生活しているのか
 (岐阜県海津市の場合)

岐阜県海津市は、
 木曾川・長良川・揖斐川の
 大きな3つの川の下流にあり、
 川と川の間にはさまれた土地は
 海面より低く堤防に囲まれている。
 このような土地は「輪中」(わらち)と言う。

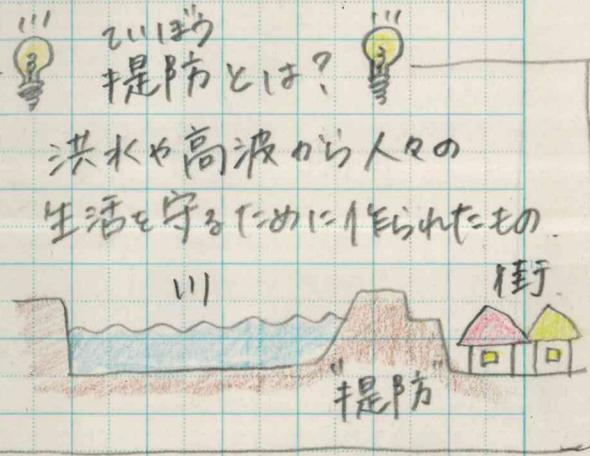
★ 輪中に住む人々は
 堤防の他にどのように工夫
 して生活しているのだろうか?

輪中の人々は堤防の他に
 少し高い土地に家を建てたり、水屋を建てたりして水害から
 くらしを守ってきた。

水屋



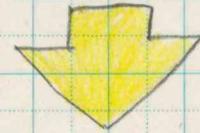
→ 水屋は家よりも高く石垣を組んで、
 洪水で家がある時に水はかき出すための工夫



★ 低い土地にくらし メリット は?

輪中の人々は多くの水害に悩まされ、台風や大雨が
 来ると輪中の内側に大量の水がたまり、農作物が
 被害を受けることもあった。

そこで...



!!! 輪中の人々は大型の排水機場を作り、
 水がたまる前に外に流し出し水害から守ってきた。!!!



たか山の被害から被害を受けた農作物

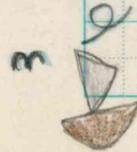


水害からくらしを守る工夫をしてきた輪中の人々は
 豊かな水を生かし稲作を行ってきた。
 昔は排水が十分に行き渡り沼のような田だった。
 そこで1948年(昭和23)から田の広さや形を整える
 工事を始め、1954年から田と田の間水路をめぐらした。
 (P.29 写真参照)

水がたまり
 稲作はできず
 野菜や果物も
 生産できず

水を生かした生活

海津市では輪中内の池や川をヨットの
 練習場やつりの施設に利用し、
 川魚を使った料理や観光バスにも
 水を入れている。



感想

低い土地の多い日本
 には多くの人が工夫を
 してくらしを守ってきた
 のに気づかされた。
 昔の人々の知恵のおかげで
 今があることに感謝して
 生活していきたい。